

仙人通信 114 石割山(1413m)

石割山は山中湖の北に鎮座し、山の上に大きく2つに割れた岩がご神体の山である。石割山・平尾山・大平山へと進んだ後に、湖畔のサイクリングロードを廻るコースとした。山中湖から道志道を200m程進んだところに小さな祠があり、左手の大きな石に『石割神社』とある所を約1km進んだところに目的の駐車場がある。ここが今日のスタートである。小さな沢に架けられた赤い橋を渡り、403段あると云う階段を雪のグリップ音を確かめながら杉木立を15分程で登ると、小檜等の落葉樹となり、石割の湯からのコースと合流する。道は整備されており8分程で尾根に出る。梢越ではあるが富士山が左手に青空に映える。時折、鳶が鳴きながら円を描いている「明日はやはり雨か何て・・・」。熊笹の葉の上の雪が音を立て落ちる。何とも静かな山旅と思いきや、静かさを破るように富士の裾野から機銃の音である。ガックリ！雪の無い崖の下では石英閃緑岩が風化し、砂状に成ったのが目に着く。丹沢の桧洞丸から加入道山・菰釣山そしてこの石割山までが同一の丹沢の深成岩帯(石英閃緑岩)である。10分も歩いたらうか大きな岩を正面に分岐点となる。山の東側を進み高度を上げると堰堤が見え、御神木の大きな桂の木、その奥に前述のご神体の岩と祠である。ここから先は、ロープや根を頼りに登る登山道である。スタートから1時間15分、3等三角点の山頂である。道志・丹沢方面はのぞめないも、鹿留山の右に雁摺山そして御坂の黒岳から王岳・その先に甘利等の巨摩山塊・白い甲斐駒・鳳凰三山・北岳から赤石までの南アルプスが、中央に富士山である。眼下には結氷した山中湖や雪に覆われた平野そして三国の山、大平山の右手には忍野(かつて売り込みにかよった黄色いファナック)、遠くには河口湖まで、申し分のない絶景である。休憩後に雪に覆われた錦木と萱の急坂を15分ほど下ると按部となり緩やかな登りの尾根となる。尾根の北側は檜の植林で何も見えないが、南側は開け眼下には山中湖である。登りが強くなると檜からブナや唐松となり、梢越しに花の園の奥にある貯水池や十二峠が望める。山頂から40分で平尾山である。予期はしていたが前線に刺激された雲が富士山山頂を覆う様になり、視界も水蒸気で落ちてきた。富士山の左に愛鷹と駿河湾上の達磨山が、そして鹿留山の先に御坂山までが背中には石割山の横に檜洞丸等の丹沢の峯だ。わずかに下ると尾根近くまで別荘地が迫り、左右ともに鉄柵となり、何とも息苦しく残念である。最初のピークを過ぎると鉄柵も無くなり、テレビ塔のある大平山と富士山を正面に見て進む。ちょうど30分でこちらも3等三角点の大平山である。視界を遮る物も無く360°の展望は最高だ。富士山に掛かる雲が飛ぶ、シャッターチャンスを探る。雪の少ない萱原を山中湖を見て、ゆっくりと40分かけて湖畔に下る。アイゼンを外し、サイクリングロードに出た。割れた氷の板が、風や遊覧船が発てる波に漂い、岸部に押し寄せカシャカシャと音を立てる。水面では、鴨・白鳥等が波に浮かぶ。(山中湖は近くであるのに、こんな長閑なコースを歩いた事は嘗て無い)湖の東側では結氷があり、明神山に積った雪が反射したり、小舟が氷の中に有ったりと絵になる。そんな平らな道を70分かけて駐車場へと帰った5時間25分(21000歩)の山旅でした(h25.2.26)

山頂からの富士山



白根三山



凍った山中湖からの石割山

